

令和6年度

あきた型学校評価



秋田県立男鹿工業高等学校

目 次

総務部	1
教務部	2
生徒指導部	3
進路指導部	4
特別活動部	5
保健部	6
教育相談部	7
図書・情報・視聴覚部部	8
1年部	9
2年部	10
3年部	11
機械科	12
電気電子科	13
設備システム科	14

②	重点目標	1 儀式・行事、会議が充実したものとなるよう運営を行う。 2 各施設設備の点検を図り安全・安心な環境維持に努める。 3 新しい生活様式に対応したPTA活動とする。		P
③	現状	1 関係分掌、団体と適宜連携し効率化を図っている。 2 施設設備点検簿を刷新し有効に活用している。 3 PTA活動に対する情報発信を行っている。		
④	具体的な目標	1 各種行事や会議を効果的に行う。 2 施設設備点検簿の改善を図る。 3 学年部と連携を深め情報を発信する。		
⑤	目標達成のための方策	1 行事や会議を有機的に運営できるよう情報を共有する。 2 設備点検が効率的に行われるよう点検システムの充実を図る。 3 ICTを活用し内外団体との連携を図る。		
⑥	具体的な取組状況	1 SchoolWare等を活用し情報の発信・収集を心掛けた。 2 点検入力をデジタル化することで負担軽減と効率化を図った。 3 PTAや学校評議員との連絡をアプリやメールを使用したことで利便性が向上し、意思疎通も図ることができた。		
⑦	達成状況	1 儀式、会議、行事ともにスムーズな運営ができた。 2 効率化が本来目的の点検の抜け漏れを防いでいる。 3 外部団体との意思疎通が学校運営の健全化に繋がっている。		D
⑧	自己評価	(評価) A	(根拠) 業務プロセスを改善することで、教育活動や特別活動へ労力を集中させることができ、生徒・保護者・地域社会への貢献度を高めることへ繋がった。	C
評価基準 A：具体的な活動がなされ、概ね目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、一部目標は達成できていない C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない				
⑨	学校関係者評価と意見	(評価) A	(意見) 業務のデジタル化、効率化が行われている。より効率化、スリム化を進めていただきたい。	C
⑩	自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	職員会議資料や施設設備点検簿、PTA活動案内、参加集計などのデジタル化を進め、効率化を推進してきた。まだ、一部に改善の余地もあるので、さらに効率化を進めていきたい。		A

②	重点目標	観点別学習状況評価に基づき、より指導と評価の一体化を図り、生徒が見通しをもって主体的に取り組む授業づくりを推進する。		P
③	現 状	主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、昨年度から授業改善重点事項を掲げ、組織的な取り組みを行っており、ICTや校務支援の利活用を含めて授業改善を推進する必要がある。		
④	具体的な目標	1 どのような力を身に付けるのか、生徒に見通しをもたせる工夫をする。 2 生徒の主体性を引き出す活動場面の設定を工夫する。		
⑤	目標達成のための方策	1 「本時の目標」を明確に伝え、計画的な学びを推進する。 2 授業改善に向けた校内の研修や新たな試みをするなどして、主体的・対話的な授業実践のための取り組みを行う。		
⑥	具体的な取組状況	1 各教室に「本時の目標」の題字マグネットシートを配り、各授業ごとに担当教職員から本時の目標を提示するようにした。 2 授業改善重点事項を定めて職員室等に掲示することで教職員の授業改善の意識を高めた。また、年2回の授業アンケートと互見授業、授業研究会を実施した。		
⑦	達成状況	「本時の目標」についてはほぼ全ての授業で提示された。授業アンケートや互見授業など、生徒からの評価や教職員どうしによる指摘により、授業改善の意識が浸透してきている。		
⑧	自己評価	(評価) B	(根拠) 互見授業を新たに実施したが、先生方の状況把握や共有の工夫を図り、組織的な授業改善に繋がるよう取り組みたい。	C
評価基準 A：具体的な活動がなされ、概ね目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、一部目標は達成できていない C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない				
⑨	学校関係者評価と意見	(評価) B	(意見) より主体的な学習をめざして、授業改善を進めていく必要がある。	C
⑩	自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	主体的な学習を目指した授業改善の取り組みとして、互見授業をより効果的に実践できるよう実施方法について検討する。また、授業アンケートや授業研究会をとおして、組織的な授業改善に繋がる取り組みを継続していきたい。		A

《学校評価シート（高等学校）》

評価領域	進路指導部
------	-------

①	重点目標	生徒の主体的な自己理解と進路選択		P	
②	↓				
③	現 状	本校卒業生の離職者数が少ないことから進路選択はうまくなされていると考える。第1希望への内定・合格率は80%~90%を推移している。			
④	具体的な目標	日々の学習活動や行事、部活動等を通して自己理解に努めさせる。また、自己理解を基にして早期に進路目標を設定させ、達成に向けた取り組みを充実させる。			
⑤	目標達成のための方策	(1)進路希望調査の有効活用 (2)企業・学校理解のための情報提供と指導の充実 (3)進学、公務員指導の充実（教科、学年部との連携）			
⑥	具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・進路希望調査を追跡し、各業界の説明会へピンポイントに参加させることができた。 ・昨年度に引き続き2年生を対象にした建設系企業による出前説明会、1年生を対象にした企業説明会を実施することができた。また、男鹿市、専門工事業者など、外部団体主催の企業説明会へ参加させることができた。 ・3年生に対し進路模擬面接を例年通り実施することができた。 ・進学指導では、年度当初に該当生徒の一覧を職員会議に提示し、数学科、理科を中心に指導をいただいている。 		D	
⑦	達成状況	概ね目標達成のための取り組みがなされていると考える。3年生の内定・合格状況は例年と比較し順調である。			
⑧	自己評価	(評価) B	(根拠) <ul style="list-style-type: none"> ・第1希望内定・合格率は、これまで93.7%（就職92.1%、進学95.2%）である。就職は昨年より1.1ポイント上昇している。進学は国公立大学へ1名合格し中期ビジョンの目標を維持することができている。 ・求人票をはじめとしたペーパーレス化の導入や、書類処理の効率化を図ることにより、進路達成に向けた取り組みがスムーズに進めることができています。 	C	
↑ 評価基準					
A：具体的な活動がなされ目標を概ね達成できた					
B：具体的な活動はなされているが、一部目標は達成できていない					
C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない					
⑨	学校関係者評価と意見	(評価) A	第1希望内定・合格率が高い。進路指導がうまくなされている。	C	
⑩	自己評価及び学校関係者評価に基づいた	来年度も第1希望内定・合格率90%以上を目指したい。さらに学年、学科との連携を図る取り組みをしていきたい。		A	

《学校評価シート（高等学校）》

①

評価領域	生徒指導部
------	-------

②	重点目標	基本的な生活習慣の確立		P
③	現状	整容や登校状況、遅刻欠席等に関して概ね良好ではあるが、意欲や活力あふれるという状況ではない。		
④	具体的な目標	基本的な生活習慣を確立することにより、より元気で活力あふれる校内環境を整えたい。		
⑤	目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員による整容指導の徹底と、日々の継続した生徒観察。 ・元気なあいさつの実践や、時間厳守、スマホの適正使用などの徹底した指導。 ・健康や安全についての自己管理能力を高める情報提供と指導 		
⑥	具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・年6回の整容指導と校門指導、学年部・学科の指導を徹底した。 ・校門指導・学年集会・全校集会・LHRで指導を徹底した。 ・保健室と学年学科の指導の下、健康や安全について徹底を図った。 		
⑦	達成状況	90%以上の生徒が、しっかりした整容、立ち止まっの元気なあいさつを励行することが出来た。工業高校としての基礎・基本の確立が出来た。		D
⑧	自己評価	(評価) A	(根拠) 生徒指導部を中心に、職員全員で徹底したことにより、今年度も工業高校生としての基礎・基本ができた。このことから、自主的に行動できる生徒が増え、元気で活力ある学校になっている。	C
評価基準 A：具体的な活動がなされ、概ね目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、一部目標は達成できていない C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない				
⑨	学校関係者評価と意見	(評価) A	(意見) 概ね基本的な生活習慣が確立されている。家庭との連携も必要である。一人の軽率な行動で学校の評価を下げないように指導を望む。	C
⑩	自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	工業高校に1番必要とされる、基礎・基本を来年度も徹底し、人間力を高め、学校生活が充実したものになるように、指導していきたい。		A

《学校評価シート（高等学校）》

① 評価領域 特別活動部

②	重点目標	・全校生徒参加による主体的な生徒会の活動と部活動の活性化		P
③	現 状	・生徒会執行部を中心に学校行事を企画・運営しているが、他動的に参加している生徒も見られる。部活動では上位大会を目指して活動しているが、生徒数減少により部員の確保が難しくなっている。		
④	具体的な目標	・全員参加型の生徒会活動を通して、人間性や社会性を育成する。 ・意欲のある部員を確保し、部活動全体の活性化を目指す。		
⑤	目標達成のための方策	・生徒会執行部・各委員会のリーダーを育成し、全校生徒の意見・要望を取り入れた主体的な活動を計画・実行する。 ・強化指定部を中心に特色選抜での生徒の確保や環境整備を図る。 ・外部への情報発信と地域等の外部との連携を図る。		
⑥	具体的な取組状況	・学校行事を生徒会執行部・各委員会のリーダー中心に滞りなく計画・実行できている。 ・特色選抜での生徒確保に向け、運動部顧問の先生方と調整を行っている。環境整備では、サッカーグラウンドの整備を行った。 ・各顧問の協力で、ホームページに各部の活動状況を載せている。		
⑦	達成状況	・生徒会執行部・各委員会の生徒を中心に全校生徒一人一人が主体的に活動し学校行事を盛り上げた。学校ホームページの部活動欄を充実させ、外部への情報発信を行った成果を期待したい。		D
⑧	自己評価	(評価) B	(根拠) 生徒会執行部を中心に学校祭を盛り上げることができたが、来場者数を増やすためにも飲食の充実なども考えたい。部活動の活性化について、検討を図りながら取り組みたい。	C
評価基準				
A：具体的な活動がなされ、概ね目標を達成できた				
B：具体的な活動はなされているが、一部目標は達成できていない				
C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない				
⑨	学校関係者評価と意見	(評価) B	(意見) 生徒数減少により難しい面もあるが、より活性化を望む。	C
⑩	自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	全校生徒全体で取り組んでいけるよう、各種行事で生徒会執行部を中心に、アイデアを出して取り組んでいきたい。部活動の活性化についても引き続き検討を図りながら取り組んでいきたい。		A

《学校評価シート（高等学校）》

①

評価領域	保健部
------	-----

②	重点目標	・校内の環境美化を推進する。		P
③	現状	・年度途中で清掃用具の数が減少する清掃区域がある。 (散逸や破損のため)		
④	具体的な目標	・各清掃区域の清掃用具充足率100%を維持する。		
⑤	目標達成のための方策	・清掃用具の数と状態を定期的を確認し、修理や補充を行う。 ・清掃点検で清掃不十分とされた区域の監督者と担当クラスに連絡し、清掃の改善を促す。		
⑥	具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃用具の破損しているものを修理したり、不足分については購入（補充）した。 ・保健環境整備委員会で清掃点検活動を6月、10月、12月（予定）に実施した。清掃連絡票を作成し、清掃不十分区域の監督者に連絡して改善を促した。 ・校内で消毒用アルコール（高濃度エタノール）を継続して活用した。 		D
⑦	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃用具に関しては十分に補足整備された。 ・清掃点検活動により、清掃状況は少なからず改善された。 		
⑧	自己評価	(評価) B	(根拠) 校内環境美化に向けて清掃用具の充実と清掃点検活動の実施により、ある程度の評価はできるが目標を完全に達成できてはならず、生徒委員会とともに今後も永久的な課題として改善しながら取り組む必要がある。	C
<p>評価基準</p> <p>A：具体的な活動がなされ、概ね目標を達成できた</p> <p>B：具体的な活動はなされているが、一部目標は達成できていない</p> <p>C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない</p>				
⑨	学校関係者評価と意見	(評価) B	(意見) 環境美化に対する意識が低いように感じる。改善に向けて、校内環境整備は必要である。	C
⑩	自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	校内環境の美化については校舎の老朽化により、容易ではないことを十分に考慮したうえで、各学年部や各科との連絡、協力体制を整えて、組織的かつ具体的改善に取り組みながら、感染症防止対策にもつなげていきたい。		A

《学校評価シート（高等学校）》

①

評価領域

教育相談部

②	重点目標	・組織的な教育相談活動を推進する。		P
③	現 状	・昨年度の生活状況調査から、スマホの使用時間増加に伴う学習時間の減少、朝食を摂らない生徒の増加の傾向が見られる。対人関係の問題等から保健室を利用する生徒も多いが、学科、学年と連携し、個々に対応している。複雑な背景の家庭を持つ生徒が多く、SCとも連携しているが、対応に苦慮している現状である。		
④	具体的な目標	・生徒が抱える悩みや問題点の早期発見、早期対応と自殺予防啓発の推進。		
⑤	目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・学年部、生徒指導部等タテ・ヨコの連携を図る。また、クラスを語る会等、生徒に関する情報を共有する場を作る。 ・生活状況調査等を実施し、その結果を面接に活用する。 ・スクールカウンセラーとの情報交換の充実を図る。 		
⑥	具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・リモートによるスマホ・ケータイ安全教室（1年生） ・面接週間（C日課） ・自殺予防の啓発便りの配付（7月） ・生活状況調査（11月） ・SCによるカウンセリング（月1） 		
⑦	達成状況	生活上の悩みを抱える生徒に対しては個別に、教育相談部、学年部、学科が連携して対応した。LINE相談・自殺予防の啓発便りを保護者にも配付した。SCによるカウンセリングを毎月実施している。		D
⑧	自己評価	(評価) A	(根拠) 生活上の悩みを抱える生徒に対し、その特性に応じて、教育相談部、学年部、学科が連携し、丁寧に対応することができた。長期休業前に、生徒を通じて保護者にLINE相談・自殺予防便りを配布し、見守りを啓蒙した。SCのカウンセリングを定期的に受けている生徒は、落ち着いて生活を送ることができている。	C
評価基準				
A：具体的な活動がなされ、概ね目標を達成できた				
B：具体的な活動はなされているが、一部目標は達成できていない				
C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない				
⑨	学校関係者評価と意見	(評価) A	(意見) 生徒の生活状況に応じた相談・見守りの体制ができている。今後も生徒が心開ける環境を心掛けてほしい。	C
⑩	自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	来年度もSCを活用したカウンセリングを継続し、関係職員間での情報共有を密にする。また、生活状況調査の結果を迅速にまとめ、気になる生徒の情報を学年部や学科と共有することで、早期対応に努める。		A

《学校評価シート（高等学校）》

① 評価領域 図書視聴覚情報部

②	重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒および職員の読書活動を推進する。 ・デジタル環境を整備する。 		P
③	現状	昨今の生徒の読書離れにより、図書館利用者が少ない。 業務系・学習系ネットワーク及びタブレット等の稼働率が高く、校務や授業で支障ないよう円滑な運用と環境整備が必要である。		
④	具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ・良書を選定し蔵書の充実を図り、情報発信をする。 ・1年生へ図書館の利用方法を周知する。 ・ネットワークやICT機器の保守に努める。 		
⑤	目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・1年部と連携し、入学時早々に図書館の利用方法を周知し、その後の利用につなげる。 ・タブレット等について、日ごろの保守管理を徹底する。 		
⑥	具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季休業等を利用し、随時古い蔵書の廃棄処分を進めている。 ・教職インターンシップの学生並びに図書委員と協力し、本の紹介や展示を行った。 ・業務系及び学習系（タブレット・Wi-Fi）の環境整備、故障対応に継続的に取り組んでいる。 		D
⑦	達成状況	本の廃棄、配置換えにより新しい本を展示するスペースを確保している。ICT機器活用のための支援に努めている。		
⑧	自己評価	(評価) A	(根拠) 計画的に新しい書籍を購入することができ、放課後の学習スペースとしての利用も見られており、環境整備が進んでいる。今後も、授業改善や学力向上に結びつくようなICT活用能力を高める指導方法を探っていきたい。	C
評価基準 A：具体的な活動がなされ、概ね目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、一部目標は達成できていない C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない				
⑨	学校関係者評価と意見	(評価) A	(意見) 生徒の図書館利用が増えているようで喜ばしい。より一層の環境整備と指導を望む。	C
⑩	自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	図書視聴覚委員と連携して、新しい書籍の紹介等、利用者増につながる活動を模索していく。さらに授業等で利用しやすい環境作りをすすめていきたい。		A

②	重点目標	・充実した高校生活を送るための基本的な生活習慣を確立する。		P
③	現状	<ul style="list-style-type: none"> ・場に応じた適切な言動ができていない生徒がいる。 ・提出物等の期限を守ることができていない生徒がいる。 ・学習習慣が身に付いていない生徒が多い。 		
④	具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ・お互いの人格を尊重させ、社会性のある生徒を育てる。 ・時間、期限、約束を守らせるよう指導を徹底する。 ・授業を大切に、落ち着いた学習環境をつくる。 		
⑤	目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な機会を使って考える場面を設定し、注意喚起する。 ・考査対策を計画的に実施させ、提出物チェックを行う。 ・学科の垣根を越えて、学年全体で指導に当たる。 		
⑥	具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・学年打合せ等で、生徒の情報交換をこまめに行っている。 ・定期考査や学校行事の前後など、学校生活の節目の時期を指導の一機会と捉え、メリハリある生活の呼び掛けを行っている。 ・面接旬間以外にも機会を見つけて、随時生徒への面談等を行うようにしている。 		
⑦	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・学科の垣根を超えての職員による指導は実施できた。 ・生徒の達成状況については個人差が大きい。学校生活への慣れや上級生の真似事など、だらしない生徒が固定化されてきている。 		D
⑧	自己評価	(評価) B	(根拠) 学年部職員間での連携や情報交換は密にできたものの、生徒への指導の浸透には課題がある。なかなか指導に乗れない者もあり、担任のみで抱え込まず多くの職員の知恵をいただいて今後の指導を工夫したい。	C
<p>評価基準</p> <p>A : 具体的な活動がなされ、概ね目標を達成できた</p> <p>B : 具体的な活動はなされているが、一部目標は達成できていない</p> <p>C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない</p>				
⑨	学校関係者評価と意見	(評価) B	(意見) いじめ・トラブルへの意見が多いと感じた。先生方には困った時に声を上げられる関係性を築いてほしい。	C
⑩	自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	<p>問題行動等の未然防止のため、他分掌とも連携して日常の指導を継続、工夫する。職員間の情報交換を学年部のみならず、他分掌とも一層密に行う。生徒面談等で、普段からすぐに話しやすいような雰囲気づくりに努める。</p>		A

②	重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育を通じた職業観の育成 ・集団意識、規範意識の涵養 ・基礎学力の向上 		P
③	現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・進路目標が明確でない生徒がいる。 ・時間や期限を守ることができていない生徒がいる。 ・学習意欲が低い生徒がいる。 		
④	具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ・進路活動や学校行事を通して、職業観と社会性を持たせる。 ・時間、期限、約束を守らせるよう指導を徹底する。 ・授業を大切にし、落ち着いた学習環境をつくる。 		
⑤	目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・インターシップや修学旅行などを通し、職業観や社会性を育成する。 ・LHR、個人面談、集会など様々な場面で考える機会を与え、注意喚起する。 ・提出物や遅刻者のチェックなど学年全体で指導に当たる。 		
⑥	具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・インターシップに向けたマナ講習などの事前指導や事後指導を行った。 ・修学旅行の集団生活における態度や行動について指導を行った。 ・すぐーるを活用し、遅刻欠席連絡などを徹底するようにした。 		
⑦	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・インターシップを実施し、生徒の進路選択に繋がる活動ができた。 ・授業を始め、様々な場面で声を掛けて指導することができた。 ・修学旅行ではほとんどの生徒が規則を守って集団行動ができた。 		D
⑧	自己評価	(評価) B	(根拠) インターシップや修学旅行を通し、規律ある生活について指導することができた。落ち着いた生活を送る生徒が多い中で、学習意欲が低い生徒や、整容や言動などに問題がある生徒もあり、分掌間で連携し、継続した指導が必要である。	C
<p>評価基準</p> <p>A：具体的な活動がなされ、概ね目標を達成できた</p> <p>B：具体的な活動はなされているが、一部目標は達成できていない</p> <p>C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない</p>				
⑨	学校関係者評価と意見	(評価) B	(意見) 一部の生徒の行動に問題があるようで、他の生徒に悪影響を与えないよう厳しい指導が必要であると思う。	C
⑩	自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	<p>問題があった際はその場で指導するなど、学年部で共通認識を持って対応するとともに、進路を含んだ面談等を行うなど日々の生活の中で個別の指導を丁寧に行っていく必要がある。</p>		A

《学校評価シート（高等学校）》

①

評価領域

3年部

②	重点目標	1 第一志望の進路実現を目指す。 2 最高学年としての自覚をもたせる。		P
③	現 状	1 自分の将来設計の関心が薄く、又、進学・就職への意識が低い。 2 上級生としての落ち着いた言動が伴っていない。		
④	具体的な目標	1 将来設計や進学・就職について意識が高まる指導を行う。 2 3年生として模範となるよう指導し目前の取り組むべきことを意識させる。		
⑤	目標達成のための方策	1 進学・就職の具体的な情報を提示する。 2 必要に応じ個別に面談するなど丁寧に対応する。学年部・進路指導部と連携して進める。 3 授業、資格取得、学校行事や部活動での活躍を支援する。		
⑥	具体的な取組状況	1 将来の設計や進路の意識が高まるよう、学年部で進路ガイダンス等で指導し、企業訪問や学校訪問を勧める指導を行った。 2 担任を中心に四者面談や個別指導で就職・進学の具体的な情報を提示した。 3 進路指導部及び各学科と密に連携し指導できた。進路の活動をするに当たり整容の指導や言動も指導した。		
⑦	達成状況	担任と副担任の丁寧な指導の下、進路実現の目標を達成できたと感じている。多様な進路先の指導に対応できた。一部の未定者の指導に課題を残す。		D
⑧	自己評価	(評価) A	(根拠) 第一志望と限らず、生徒の希望に沿った進路実現を指導できたことと、担任・学年部が進路指導部・学科と連携し1年を通して丁寧に指導し概ね目標を達成した。	C
評価基準 A：具体的な活動がなされ、概ね目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、一部目標は達成できていない C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない				
⑨	学校関係者評価と意見	(評価) A	(意見) 進路への意識を高める指導ができたことで、適切な進路指導の結果、進路目標が達成されている。	C
⑩	自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	概ね目標を達成できたが、大学進学指導、家庭・生徒の個別の事情、特殊な進路先などに具体的に対応できない面があり課題として残ったので来年度の指導に引き継ぎたい。上級生として自覚と後輩の模範になるような生徒指導の継続が今後も必要である。		A

②	重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ものづくりを通して、総合的な人間力の育成を目指す。 安全教育の徹底を図る。 		P
③	現 状	<ul style="list-style-type: none"> 機械に関して興味が乏しく、基礎学力不足や自己中心的な生徒が増えてきた。 		
④	具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> わかる授業、できたという充実感が得られる授業を目指す。 協調性を持ち、周囲の人と問題解決できる生徒に育成する。 		
⑤	目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> わかりやすい授業を心がけ、基礎・基本の定着を図る。 授業や教育活動において発問を工夫し、生徒が自ら考え、行動できるようにする。 		
⑥	具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 実習における整容指導、安全指導を通して意思の疎通を図り規範意識等の高揚を図った。 授業において、生徒が考えるための時間を設け、自分の考えを発表させることに努めている。 		
⑦	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> 安全第一を合い言葉として、怪我につながらないようにコミュニケーションをとり、作業することができた。 自分の考えをもつことはできても、自分の言葉で発表したり、自分の意思で課題に取り組むことが不足している。 		D
⑧	自己評価	(評価) B	(根拠) <ul style="list-style-type: none"> 生徒の主体的学習行動を促す指導方法にさらなる工夫が求められる。3年生全員の進路目標達成に向けて指導を継続している。 	C
<p>評価基準</p> <p>A：具体的な活動がなされ、概ね目標を達成できた</p> <p>B：具体的な活動はなされているが、一部目標は達成できていない</p> <p>C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない</p>				
⑨	学校関係者評価と意見	(評価) B	(意見) 生徒の主体性を伸ばすための指導が課題となっているように思う。	C
⑩	自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	座学の授業だけでなく、実習や課題研究、各種発表会において、生徒が考えるための時間を設け、自分の考えを発表させることに努めていきたい。		A

②	重点目標	・社会の一員として社会や地域に貢献できる生徒の育成をめざす。		P
③	現 状	・義務教育段階の積み残しがある生徒が多く、進路実現に向けて具体的に行動できる生徒が少ない。		
④	具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ・安全に関する事項を常に意識して行動できる生徒を育成する。 ・資格取得への挑戦を通じて学び続ける意識を醸成する。 ・工業科の学習活動を通じて職業観・勤労観を醸成する。 		
⑤	目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・安全に関する内容は、実習・実技科目を中心に、「なぜ・どのように」を丁寧に指導する。 ・第2種電気工事士試験は全員での指導体制をとる。早期から朝、放課後を利用して補習を行う。 ・各種講話や授業をとおして電気エネルギー及び電子技術の社会的役割を分かりやすく指導する。 		
⑥	具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・工業基礎、実習、課題研究といった実技科目を中心に整列指導や実験をとおして常に安全に意識するように指導している。 ・資格取得についてはSHR前及び放課後の時間を使い補習を行った。生徒も受験に前向きである。 		D
⑦	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年ともベルと同時に整列点呼できる状態になってきている。服装も概ね良好であり、実習に対する心構えができており、実験中も安全に対する意識が高まってきた。 ・計算技術検定は19人中19人の合格、第二種電気工事士も合格率こそ高くないが挑戦者が増加している。現1年生に第3種電気主任技術者に取り組もうとしている生徒がでてきた。 		
⑧	自己評価	(評価) B	(根拠) 安全に対する心構えはできている。計算技術検定全員合格だが、第2種電気工事士の受験者、合格率を増やしていきたい。	C
<p>評価基準 A：具体的な活動がなされ、概ね目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、一部目標は達成できていない C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない</p>				
⑨	学校関係者評価と意見	(評価) B	(意見) 資格取得を希望する保護者は多いように思う。保護者へ繰り返し案内を行って協力を仰いだらと思う。	C
⑩	自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	進路指導と絡め、第2種電気工事士取得のメリットを生徒や保護者に今まで以上に伝えていきたい。また、上位資格にも挑戦するように勧めていきたい。		A

《学校評価シート（高等学校）》

①

評価領域	設備システム科
------	---------

②	重点目標	・基礎学力の向上と定着に努める。		P
③	現 状	・基礎学力の低い生徒が増えている。 ・コミュニケーション能力が低く、自分の思っていることをうまく表現できない時がある。		
④	具体的な目標	・基礎・基本を重視し、生徒の実態に即した指導を行う。		
⑤	目標達成のための方策	・資格取得（計算技術検定や危険物取扱者）など具体的な目標を設定し、学習方法を身に付けさせる。 ・進路を意識させ、主体的に行動できるように指導する。		
⑥	具体的な取組状況	・1年生を対象に計算技術検定3級、危険物取扱者丙種の受験指導を行っている。 ・2年生を対象に実習や空気調和設備の授業で、危険物取扱者乙種四類受験指導を行っている。また、基礎製図検定の全員受検を昨年度から実施している。 ・管工事業への就職希望者には配管技能士の取得を奨めている。		
⑦	達成状況	・1年生の計算技術検定の合格率は97% (28/29) ・基礎製図検定の合格率は33% (8/24)		
⑧	自己評価	(評価) A	(根拠) 計算技術は科職員全員で協力しながら、達成度の低い生徒に対して個別に手当てできた。基礎製図も計画通り指導することができ、概ね目標を達成できた。危険物は結果（12月下旬）待ち。	C
		↑ 評価基準 A：具体的な活動がなされ概ね目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、一部目標は達成できていない ↓ C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない		
⑨	学校関係者評価と意見	(評価) A	(意見) 資格検定の合格率向上の取り組みを継続してほしい。	C
⑩	自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	資格については、科職員全員の方である程度の結果を残せたと思う。しかし、基礎学力のみならず、生活全般について基本的な態度が身につけていない生徒に対して、さらなる指導を要する。来年度に向けて、今から軌道修正できるよう努める。		A

